

ハイリスク親支援グループ (High-risk Parent Support Group)

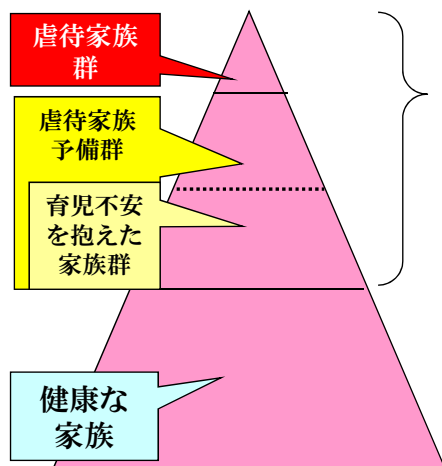


公益社団法人 日本看護協会
常任理事 中板 育美

ハイリスク親支援グループ(High-risk Parent Support Group)

サポート・グループ型の親グループは、
「親支援グループ（鷺山、2006）、Parent Support Group（中板、2008）」

親**教育**グループを「親支援グループ」と記載するものが散見されている



グループを「何でもあるいは何かしら」やればいいのではなく、ターゲットに見合ったグループ手法をとる必要がある。

虐待予防の視点から
ハイリスクと判断された親支援は、
「指導ではなく支援」

鷺山拓男（2006）子どもの虐待と母子・精神保健—虐待問題にとりくむ人のための「覚え書き」改訂版。萌文社。
中板育美（2008）児童虐待の発生予防・進行防止を目指す在宅養育支援のあり方に関する研究—「育児支援家庭訪問事業」および「親支援グループミーティング」を通して
鷺山拓男、遠藤厚子、山下洋子、他（2012）虐待予防は母子保健から—ハイリスク・アプローチとしての親支援グループ。日本子どもの虐待防止学会第18回学術集会高知りょうま大会。

厚生労働省局長通知(2002年6月)

1 児童虐待の発生予防に向けた積極的な取組

健康診査や保健指導等母子保健活動全般を通じて、・・・虐待発生のハイリスク要因を見逃さないよう努めるとともに、こうした要因がある場合については、保健師の家庭訪問等による積極的な支援を実施し、児童虐待を発生から予防する取組を保健所、市町村が適切な連携の下に組織的に推進されたいこと。

2 児童相談所との連携・協力

保健所、市町村の保健師等が児童虐待が行われている疑いがある家庭を発見した場合については、児童虐待への対応の中核的機関である児童相談所へ通告を行った上で、当該事例への早期対応、被虐待児や親への援助等において、児童相談所等関係機関との連携・協力を保健所、市町村として組織的に推進されたいこと。

厚生労働省母子保健課長通知(2012年7月)

1 養育支援を要する家庭(要支援児童・特定妊婦)への早期支援

(1) 望まない妊娠への対応

(2) 妊娠期からの支援

妊娠期から養育支援訪問事業等を活用するなどし、・・・

(3) 養育支援を要する家庭の把握及び関係部署による連携

(母子保健は)妊娠の届け出や妊婦訪問等で要支援児童や特定妊婦を発見し、養育支援を必要とする家庭を早期に把握できる立場にある。

母子保健に従事する保健師には、虐待や精神保健等に関する知識や技術、特に、心中を含めた虐待防止のため、家庭に関する情報収集能力、アセスメント能力、面接等の援助技術が求められ、・・・

市町村は、母子保健担当部署の質の向上と体制の整備のため、職員への研修受講の機会の提供、・・・業務量に見合った人員の配置や、組織内で相談・指導ができる体制の整備等による体制の強化に配慮すること。

指導ではなく支援

ハイリスク・アプローチの虐待予防において重要なことは、
「育児**指導**」ではなく
「育児**支援**」である。

米国においても、C. H. Kempeは
誰かが「親の相談者になる」ことで親の心理社会的孤立を解く
その援助関係を軸に生活ストレスの実質的軽減を図る
子どもの心身の健康を他の大人が子どもに直接関わることで改善する
これらの援助で親の負担が軽減した後で親の育児を変える働きかけを行う

ましてや、母性神話の圧力が根強いわが国では、
この順序を守ることはより一層重要となる。

小林美智子(2007) VII. 今後の展望 特集 どうか関わるかー子どもの虐待. 小児科臨床, 60(4);853-866

指導ではなく支援（続）

「虐待が起きている家庭では、経済的背景や生活苦や育児負担のために相談機関に通う余裕もないことが多く、育児についての指導的助言はほとんど意味がなく、かえって親のストレスを増やし、虐待を悪化させるか援助拒否につながる。」
(小林2007)

小林美智子(2007) VII. 今後の展望 特集 どうか関わるかー子どもの虐待. 小児科臨床, 60(4);853-866

虐待親への援助にあたっての大原則

- 援助者自身が母性を押し付けていないか（内省）
- 説得・説明・時に叱責していないか
- アドバイスを押し付けて、頑張りなさいと励ましていないか
（「これ以上頑張らなくてよい」と保証することが大事）
- 孤立無援感を看過していないか（環境を精査しているか）
- これまでの努力。がんばってきたことに耳をかたむけているか
- 母親をやらなくていい時間をつくる。
そのための具体策を一緒に考える。
育児負担を軽減もしくは免除されて正当だと保証する。
- 一人の援助者が抱え込まない

「ハイリスク親支援グループ」においてもそのまま重要な項目「共感」や「保証」はグループで他のメンバーから提供される
とき、プロの援助者の提供よりもはるかに強力である。

group approachの目的による分類

- **therapy group**（疾病の治療や課題解決を目的に医療機関やカウンセリング機関が行う）
- **training group**（教育・訓練目的 SSTなど）
- **growth group**（人間的成長を目的）
- **support group**（成長も治療も改善も主たる目的とはしない。問題と折り合いをつけ、生き延びることが目的）
- **self help group**（共通のテーマを持つ人が当事者同士の共感や分かち合いを体験し、支えあって生き延びていくことを目的）

***support group**の概念は、多数存在しており、分類のひとつに位置づいている。（第26回日本集団精神療学会）

support group (サポート・グループ)

グループの開設、運営は専門家の責任で行われること
グループの場の安全の確保やグループで生じた問題に最終的に責任をとる役割を専門家が引き受けることを前提とすること

この相互援助グループを自助グループから明確に区別して
「サポート・グループ」と近年よぶようになった（高松里2004）。

*** 保健所等が行ってきたハイリスク親支援グループはsupport groupである。**

高松里(2009)サポート・グループ、セルフヘルプ・グループの立場から. 集団精神療法25(2); 225-229.

*** 目的・運営方法から見てもsupport groupは保健機関が実施することが妥当**

わが国の母子保健システム

プロテスタントの相互援助と自治の文化が北米にはあるが、日本にはない。一方で、

「我が国の母子保健は世界に例のない優れたシステムを持っている。（中略）

- ① 全国の自治体に保健師が配置されていること（中略）
- ② 乳幼児保健システムが整備されていること（中略）すべての子どもの健康管理を行い、（中略）さらには保健師が家庭訪問するという母子の全数を視野に入れたシステムが全ての市町村に構築されている。」

（子どもの虐待予防のための保健師活動マニュアル（2002））

安全性と専門家の責任性が強化された構造の、
ハイリスク親支援グループを母子保健が行うことが日本では可能。

保健の場で行う親支援グループは、 ハイリスク・アプローチである

親支援グループが適切に虐待予防の効果を発揮するためには、**乳幼児健診などの母子保健活動一般との連携**が欠かせない。

ハイリスク事例を適切に発見しグループに誘導してこそ、公衆衛生上有効度の高い予防活動となる。

地区担当保健師によるアセスメントと個別の支援計画、グループへの適応の有無の判断があってはじめて、グループは有効に機能するものとなる。

「グループに参加したい人」ではなく
「保健師からみてグループに参加させたい人」

を誘導し選択的に参加するグループでなければならない。

NPは「虐待してしまう親」は適応除外

NP (Nobody 's Perfect) …カナダで1980年代はじめに開発された
親教育プログラム

* ポピュレーション・アプローチの親教育によって親業(parenting skill)を向上させることで虐待の一般予防を図る。

* ハイリスク・アプローチとは全く異なる発想のもの。

「虐待してしまう親向けのプログラムではない（新田2010）」

「親が親としての役割を果たせるように支援する（原田2007）」プログラム

「専門的な個別対応を必要とする危機的状況や深刻な問題を抱える家族を対象としたプログラムではない（原田2007）」

新田初美（2010）Nobody's Perfect (NP完璧な母親なんていない！) プログラムへの期待。
新潟県医師会報No.729、 pp.11-15

原田正文（2007）親支援プログラム“Nobody's Perfect”とは？日本の親にもぴったり！虐待予防にもなるプログラム。保健師ジャーナル63(9)；774-777